

和の光

宝塚市立西谷中学校



西谷中学校のみなさんへ

教諭 図師 友紀子

私が皆さんの年齢の頃に、選択した進路についてお話ししたいと思います。

小学生のときの私は、帰宅したらランドセルを玄関に置いてすぐに遊びに行きたい子でした。5・6年生のときの担任の先生はめちゃくちゃ怖かったので、とにかく宿題はやらなきゃならない…朝学校に着いて、ぶぁーとして何とか提出に間に合えばキックベースしに運動場へ出たり教室で漫画を書いたりしていました。一方で、運動(特に走ること)は苦手な運動会や冬の持久走は苦痛でした。

そんな私が、中学生になって運動することって楽しいと感じたり、大学ではチアリーディングに挑戦したりするので周りも張本人も驚きです。

パコーンという音、サーブする姿、ユニフォームの可愛さなどに憧れて、中学校では硬式テニス部に入部しました。早くラケットが触りたくて、早くコートで打ちたくてボール拾いをひらすら頑張りました。その行動を先輩たちが認めてくれて、1年生の中でも早くにコートに入れてもらうことが出来ました。先輩ともダブルスペアを組んだり、体育科の持久走ではランキングに入ったりして小学生のときの私には考えられないほど運動能力が向上した時期でした。きっと、努力すれば結果につながる、と実感したのだと思います。

学習では、小学生のときは特に得意な科目がなかったのですが、中学生になり初めて英語科の授業を受けたときパーと世界が広がり、「英語ってカッコいい!」と感じました。進路を決めていく頃には「現地で英語に触れたい!」の想いが募り留学できる学校の情報収集をしました。しかし、「ここに行きたい!」と両親に申し出ると反対されました。まず、「費用がかかる」と。十三経由の2時間弱かかる通学も心配されました。「私、頑張るから!費用は出世払いするから!1日も休まずに行くから!」と毎日お願いをし、当時の担任の先生に励ましていただき、また私の気持ちを親に代弁してくれました。(現在の筒井校長先生です👍)

母は徐々に応援体制になってくれましたが、頑固な父はゴーサインを出してくれず、私はそれならば併願で受験して公立高校の試験は白紙で提出し、父が承諾してくれることを企みました。併願は専願より合格ラインが上回るので合格するためにめちゃくちゃ勉強しました。人生で一番勉強したと思います。その努力が実り合格し、公立入試までもう一度父を説得する日々が再開しました。遂に父は折れてくれて、留学中は応援してくれました。「娘がNZにいる」とABCラジオに応募して、私はNZからラジオ出演も果たしました。

大阪府での高校生活では、「なんて狭い場所(宝塚)で生活していたんだろう」とカルチャーショックを受けました。留学中は「なんて狭い国で生きてきたんだろう」と再びカルチャーショックを受けました。しかし、私は幼小中時代に育った「宝塚」も、高校生活を過ごした「大阪」も好きで、「日本」が好きということも再確認できました。みなさんも「これ好きかも」に気づいてみてください。実はもう出会っているかもしれませんよ。好きなことが自分の未来につながることでしょ。

ここで私がビビビッと感じた詩、福岡伸一著『ルリボシカマキリの青』を紹介します。

『大切なのは、何かひとつ好きなことがあること、そしてその好きなことがずっと好きであり続けられることの旅程が、驚くほど豊かで、君を一瞬たりともあきさせることがないということ。そしてそれは静かに君を励ましつづける。最後の最後まで君を励ましつづける。』

そして、NPB 日本ハムの開幕戦で1勝を掲げたときの監督の一声です。

「努力は一生、本番は一回、チャンスは一瞬」

ええこと言うやん👉👈と思いました。

身体が変化したり、心が悶々としたりして色々悩むことが多い中学校生活だと思います。私の話が少しでも皆さんの励ましになれば嬉しいです。わたしは西谷中生のことを応援しています!ちなみに、親に留学費用の出世払いはまだできておりません。

■先生方からのメッセージ

中学校には学級担任・教科担任をはじめたくさんの教職員がいます。全ての教職員が心を一つにし、チーム西谷中として子どもたちの教育活動を推進していけるように努めています。これらの教職員の人生経験から何か生徒の皆さんに伝えることができないか、と考えて学校通信に原稿を書いてもらうようにしました。三宅養護教諭、井崎栄養教諭については既に掲載済みです。そして、今回は図師教諭(英語科・一年生担任)にお願いして書いてもらいました。引続き、たくさんの先生方の原稿を紹介していきますので、ご期待ください。

■5月の生徒朝礼を行いました

連休が終わり、気が付けば5月中旬です。5月13日に生徒会主催の生徒朝礼を行いました。生徒会執行部の皆さんからは、各委員の5月の取り組み目標について説明がありました。今月は中間テスト、ふれ合い運動会の練習もスタートします。各委員の目標が確実に実行できるように、一人一人が心掛けて生活しましょう。



北摂中学校総合体育大会と宝塚市中体連春季大会の表彰(女子テニス部)

■女子テニス部が大活躍

女子テニス部のメンバーが北摂中学校総合体育大会と宝塚市中体連春季大会において、日頃の練習の成果が発揮できるように頑張りました。その結果、下記のように好成績をおさめることができました。テニス部のみなさん一人一人に「おめでとう」と心から賛辞を送ります。これからも部員の心を一つにして、大いに活躍してくれることと期待しています。

【北摂中学校総合体育大会 川西市教育長杯 女子ソフトテニス競技大会】

第3位

3年:Aさん Bさん Cさん Dさん

2年:Eさん Fさん Gさん

【宝塚市中体連春季大会 女子ソフトテニスの部】

・個人戦 第3位 Aさん Bさん ペア

・女子ソフトテニス 学校対抗戦 優勝

3年:Aさん Bさん Cさん Dさん

2年:Eさん Fさん Gさん



宝塚市中体連春季大会 女子ソフトテニスの部



北摂中学校総合体育大会 川西市教育長杯 女子ソフトテニス競技大会

■ことばの花束

勉強には

2つの面がある

一つは

勉強は一週間や二週間

激しくやって、成果があらわれる

ものではないということだ

短期間の猛烈な努力などよりも

毎日の一時間の授業や

一枚の課題や

四分の一枚の朝テストを

自分のものにしようという

着実に努力する方が

大切であるし

勇気も必要だ

繰り返すが

毎日の小さな努力の方が

はるかに勇気を必要とする

二つには

勉強というものは

強烈に楽しいものではないということだ

それよりも

課題をやり終えた

小さな満足感

そんなかすかなものが

勉強の楽しさの正体なのである

※この詩は私が中学3年生を担当していた時に、同学年の担任からもらった学級通信に載っていた詩です。(作者不詳)皆さんはこの詩を読んでどのようなことを感じましたか。勉強をしたからといって成果はすぐには得られない、それより毎日の小さな努力の繰り返しの方が大事であること。当たり前だけれど、その小さな努力をするために自分の殻を破って一步を踏み出す勇気が必要であること。努力をすれば小さな満足感が得られること、そのかすかな満足感が勉強の正体であること。短いこの詩に込められた深い思いを皆さんに伝えたく思い、紹介させていただきました。

学校長 筒井 啓介